

子どものようになれ

鍵となる聖句：「まことに、あなたがたに告げます。幼子のようにならなければ、だれも神の国に入ることはできません。」

マルコによる福音書 10:15

選読箇所：

マルコによる福音書 10章13-16節

イエスの弟子たちが、幼子たちに主の祝福を求めた人々を叱りつけるなどというのは、彼らの性格からは考えられないことのように思えます。おそらく、長い一日の教えや、パリサイ人との対立、あるいは離婚に関するデリケートな議論が、彼らの反応を引き起こしたのでしょう。彼らは、幼子たちがそのような大人向けの話題に触れるのを防ごうとしたのかもしれない。あるいは、彼らは御国における自分たちの将来の役割に気を取られていたのかもしれない。誰がイエスの右に座り、誰が左に座るのか？ 幼子たちに気を散らされている場合ではなかったのだ。それどころか、イエスは弟子たちのその態度に不快感を示された。彼らは御国とその序列に関する重要な点を見落としていたのだ。

イエスは不快感を示し、こう命じられました。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国は、このような者たちのものである。まことに、あなたがたに告げる。子供のように神の国を受け入れない者は、決してそこに入ることはできない。そして、イエスは子供たちを抱き上げ

、手を置いて祝福された。」（マルコ10:14-16）。イエスが「神の国はこのような者たちのものである」と述べたとき、幼子たちに体現されているとは、一体どういう意味だったのでしょうか。

彼らはイエスの腕に抱かれるほど小さかった。イエスも幼い頃、似たような経験をしていた。「見よ、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は義人であり、敬虔な人で、イスラエルの慰め主を待ち望んでおり、聖霊が彼の上に臨んでいた。そして、聖霊によって、主のキリストを見るまでは死なないことが彼に啓示されていた。そこで、彼は聖霊に導かれて神殿に入った。両親が幼子イエスを連れて来て、律法の定めどおりに行おうとしたとき、シメオンはイエスを抱き上げ、神を賛美して言った。『主よ、今こそ、御言葉どおり、あなたのしもべを安らかに去らせてください。私の目は、あなたがすべての民の目の前で備えてくださった救い、異邦人に啓示をもたらす光、そしてあなたの民イスラエルの栄光を見たからです。』」ルカによる福音書 2:25-32

イエスに祝福されたこのような幼子たちは、心と思いに無垢さを持っていた。皮肉、偏見、人種差別、ナショナリズム、貪欲、憎しみ、そして墮落した人間が持つその他の欠点から解放された彼らは、神の御国において支配するであろう心の清さ、愛、そして信頼を体現していた。

イザヤが預言した平和の王国は、「子供のような」心が果たす積極的な役割を示しています。「狼は子羊と共に住み、ヒョウは子山羊と共に伏し、子牛と若い獅子と肥えた家畜は共にいる。そして、幼子が彼らを導く。雌牛と熊は共に草を食み、その子らは

共に伏し、獅子は牛のようにわらを食べる。乳飲み子はコブラの穴のそばで遊び、乳離れした子はマムシの巣に手を入れる。わたしの聖なる山では、誰も傷つけたり滅ぼしたりすることはない。なぜなら、水が海を覆うように、主の知識が全地を満たすからである（ ）」（イザヤ書11:6-9）。「幼子のように」あれ。神の国は、そのような者たちのものだからである。